

各 位

会 社 名 株 式 会 社 レ ー サ ム  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 田 中 剛  
 JASDAQ コード 8890  
 問 合 せ 先 取 締 役 管 理 本 部 長 松 倉 信 行  
 電 話 03 (5157) 8881

平成 22 年 8 月 期 通 期 連 結 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ

本日開催の取締役会において、平成 21 年 10 月 16 日に公表した平成 22 年 8 月 期（平成 21 年 9 月 1 日～平成 22 年 8 月 31 日）の通期連結業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 8 月 期 通 期 連 結 業 績 予 想 の 修 正

平成 22 年 8 月 期（平成 21 年 9 月 1 日～平成 22 年 8 月 31 日）の業績予想数値の修正

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想 ( A )	29,600	2,700	2,000	1,600	3,472.11
今 回 修 正 ( B )	16,071	1,434	788	667	1,448.63
増 減 額 ( B - A )	△ 13,529	△ 1,266	△ 1,212	△ 933	—
増減率= $\frac{B-A}{A} \times 100$ (%)	△ 45.7	△ 46.9	△ 60.6	△ 58.3	—

ご参考：前期（平成 20 年 9 月 1 日～平成 21 年 8 月 31 日）の実績

平成 21 年 8 月 期 実 績	17,138	△ 13,955	△ 15,571	△ 26,705	△ 57,952.04
-------------------	--------	----------	----------	----------	-------------

上記業績予想の修正に伴い、平成 22 年 8 月 期におけるセグメント別内訳につきましても、以下のとおり修正いたします。

前回予想のセグメント別内訳（平成21年9月1日～平成22年8月31日）

（単位：百万円）

	資産運用 事業	証券化 事業	プロパティマ ネジメント事業	サービシ ング事業	投融資 事業	その他の 事業	計	消去 又は全社	連結
売上高	24,000	30	1,270	3,660	0	640	29,600	—	29,600
営業利益	2,200	10	140	690	0	20	3,060	(360)	2,700

今回修正のセグメント別内訳（平成21年9月1日～平成22年8月31日）

（単位：百万円）

	資産運用 事業	証券化 事業	プロパティマ ネジメント事業	サービシ ング事業	投融資 事業	その他の 事業	計	消去 又は全社	連結
売上高	10,197	35	1,633	3,601	0	624	16,093	(22)	16,071
営業利益 又は 営業損失(△)	640	23	386	782	△ 3	△ 3	1,826	(391)	1,434

## 2. 平成22年8月期 通期連結業績予想の修正理由

### <資産運用事業>

当事業においては、お客様の不動産投資意欲に合致した不動産を確保し、これを長期の運用商品として耐えうるものに加工した上で、お客様への販売を行ってきております。

平成21年12月4日に中小企業金融円滑化法が施行されて以降、金融機関の担保不動産が任意売却に至らないケースが、本事業年度の後半に於いても当初の想定を上回った結果、販売用不動産の調達で想定を下回りました。一方で、お客様の個別の不動産投資意欲を組み入れた不動産の調達から販売までのスピード感は確実に向上してまいりました。

このような状況下、第3四半期においては比較的堅調に仕入及び販売実績が積み上がりましたが、期末にかけては不動産調達環境が厳しい中で調達する販売用不動産の仕入を厳選した結果、販売実績については想定を下回ることとなりました。さらに、期中に仕入れた商品については在庫期間を短縮して着実に販売を進めた一方で、既に安定したキャッシュフローを生んでいる商品については、安定的な賃料収入を確保することを優先したこともあり、資産運用事業の売上高は10,197百万円と、当初予想に対して13,803百万円の減少見込みとなりました。

資産運用事業の営業利益は、売上総利益の利益率については当初予想の利益率を上回りましたが、売上高の減少に伴い営業利益額は640百万円となり、当初予想に対して1,560百万円減少見込みとなりました。

### <証券化事業>

当社がアセットマネジメント業務を受託しているSPCからのアセットマネジメントフィーについて、保守的に予想しておりましたが、売上高、営業利益ともに当初の予想を上回る見込みです。

#### <プロパティマネジメント事業>

管理収入が予定どおり安定的に推移したこと、また、資産運用事業において販売用不動産在庫の一部について安定的な賃料収入を確保したことを主な要因として、プロパティマネジメント事業の売上高は当初予想に対し、363百万円の増加、営業利益は246百万円の増加見込みとなっております。

#### <サービシング事業>

サービシング事業の売上高については、当初予想に対し、59百万円の減少となりましたが、保有する買取債権からの丁寧な回収活動に注力し、利益率を向上させた結果、営業利益については当初予想に対し、92百万円の増加となる見込みです。

#### <投融資事業>

投融資事業については、期初における貸付金残高がわずかであったことから、当初予想でも売上、利益ともに見込んでおりませんでした。実績としても売上高は100万円未満となり、若干の販売管理費（オフィス賃料）の計上により3百万円の営業損失となる見込みです。

#### <その他の事業>

その他の事業については、連結子会社が保有するゴルフ場である、レーサム・ゴルフ・アンド・スパリゾートにおいては、ほぼ予定どおりの売上高と営業利益を確保いたしました。営業利益が当初予想を下回った理由は、レーサム本体において富裕層向けのゴルフスタジオを東京・表参道にオープンし、当初予算では見込んでいなかった販売費及び一般管理費の増加があったことによるものであります。

### 3. 平成22年8月期 通期連結業績予想の修正に伴う連結財政状態について

今回の連結業績予想の修正により、売上高及び利益ともに当初の計画は下回ったものの純資産は着実に増加しております。また並行してバランスシートの自己資本比率の改善に注力し、前連結会計年度末比で有利子負債残高を8,230百万円圧縮した結果、平成22年8月期末時点における総資産は51,615百万円、純資産は19,596百万円となり、連結自己資本比率は38.0%（平成21年8月期末：31.3%）まで上昇いたしました。

なお、上記の有利子負債圧縮額は、新規の販売用不動産仕入に対する国内金融機関からの直近の新規資金調達実績に伴う借入金増加額も含めたうえでの数値であります。

以上

上記の業績予想等に関する記述は、当社グループにおいて現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績については、さまざまな要因の変化により、これらの業績予想と異なる可能性があることをご承知おきください。